



週刊朝日“先進治療・腋臭症”の取材を経験して

岡田達郎(岡田クリニック院長)

2月の或る日、診療の最中であった。週刊朝日の編集者と名乗るうら若き女性の声で電話がかかってきた。

その用件は「この度、当誌『週刊朝日』で連載している“最新テクノロジー・先進医療”シリーズにおいて、“腋臭症”を特集する。ついではそのテーマに関して貴方を取材したい」との申し出であった。更に「当企画に際しては、事前にテーマ関連の学術誌に発表された論文を調査し、その結果貴殿の論文が候補に決まった」との事であった。ほどなくして、かの電話の女性が取材に訪れた。

「インタビュー取材の全ては録音をしたい」とことわった後、読者からの投書を例にして原因、遺伝関係及び治療法など、主だった外科的治療と腋臭症に関して幅広く聞かれた。

2時間近くのインタビュー取材、顔写真を2枚ほど撮影した。学術用語や数字など、間違いやすい点のあやまりを避けるために、メモ形式で私の話した内容を文字にして渡しておいた。

数日後、インタビューア－から、予定原稿が

FAXで送られてきた。内容について医学的に不備な点はないか目を通してほしい旨、メモが添えてあった。そして写真のような、平成6年4月22日号の週刊朝日が発刊された。折しも、細川首相辞任を報道する号であった。



週刊朝日の連載している、シリーズ“最新テクノロジー・先進医療”は、現在まですでに連載76回の長期にわたって続けられており、各号でその時期に読者が興味を持つであろうと思われるテーマがとりあげられている。過去の週刊朝日を参考までにめくってみると、回答者には、いわゆるその分野の学識経験者と理解されている学者が担当している。肩書きで言えば、大学教授、研究所の長と、読者に納得してもらえそうな面々である。だから、私に取材の申し出が



**超音波メスで汗腺除去
楽な手術で成功率も高い
市販の制汗剤にも匹敵した製品**

先進医療

腋臭症(わきが)

腋臭症(わきが)とは、腋窩(わきの下)に存在する汗腺(汗を分泌する腺)が過剰に発達し、汗を分泌することによって発生する臭気(におい)のことです。腋臭症(わきが)は、遺伝的要因やホルモンの影響によって発生することが多く、年齢とともに悪化する傾向があります。従来は手術による汗腺除去が行われてきましたが、手術は痛みや腫れ、感染などのリスクがありました。しかし、最新の超音波メスを用いた手術は、痛みや腫れが少なく、成功率も高いことが確認されています。市販の制汗剤にも匹敵する効果が期待されています。

INFORMED CONSENT

**いろいろな手術法「直視下」
の切除でも90%以上の改善率**

腋臭症(わきが)は、腋窩(わきの下)に存在する汗腺(汗を分泌する腺)が過剰に発達し、汗を分泌することによって発生する臭気(におい)のことです。腋臭症(わきが)は、遺伝的要因やホルモンの影響によって発生することが多く、年齢とともに悪化する傾向があります。従来は手術による汗腺除去が行われてきましたが、手術は痛みや腫れ、感染などのリスクがありました。しかし、最新の超音波メスを用いた手術は、痛みや腫れが少なく、成功率も高いことが確認されています。市販の制汗剤にも匹敵する効果が期待されています。

あった時、記事広告の勧誘かと疑った。私の場合、過去はともかく現在はただの町医者である。その私に対しての取材の申し出は、なにかの間違いではないかと疑ったのは無理のない事であろう。

週刊朝日の編集側では、先に触れたようにテーマが決まると、過去に発表された医学誌を編集者自身が読んで、適当と思われる候補者を探すようだ。「今回のテーマについては、九州の某大学教授の論文も候補に上がったが、学術誌、皮膚科の臨床誌に載せられていた貴方の論文の方が今回の記事内容にふさわしいと考えた」との事であった。だから大学教授なら誰でもよいと言うのではないと推測した。

質問者である女性インタビュアーは、実に医学の面に知識が豊富で、医者でない人と会話してい

る時の違和感は全くなかった。

本号では、化粧品会社の研究所の立場から、化粧品、塗り薬の使用について述べられ、最新の話題になっているレーザー光線処置について某教授が解説し、私が **Informed Consent** の欄で腋臭症の解説と、約30年近く経験した腋臭症の、最近の私の手術法について記載されていた。

連載“…先進医療”は、読者に関心を持たれ、身近にある病気をテーマにし、学術的な医学専門論文にありがちな堅苦しい感じを与えない、という編集方針である。事実、この記事が出てからすぐに若い女性が、この季節には恐らく腋臭症の記事が出るであろうと、待っていたと、当クリニックに診察に訪れた。